

## 第2学年8組 道徳指導案

- 1 主題名 自己の向上を目指して〔内容項目A－(3)：向上心〕 (1時間完了)  
(資料名 『親切』のできなかつた日 出典：明るい人生(愛知県教育振興会))

### 2 ねらい

病院の待合室でドアを開けられずに困っているけが人に、素直な気持ちで親切ができない自分と、相手を優しく思いやろうとする自分とが心の中で葛藤する経験を通し、いつかわたしにも何気なく親切ができる日がくるといいなというよりよい生き方を目指そうとする気持ちを考えることで、自分の心にある弱さを見つめ、自己のよさに気づき、そのよさを伸ばし生かそうとしたり、よりよい生き方を目指すそうとしたりする道徳的心情を高める。

### 3 ねらいとする道徳的価値

人間は、自己のよりよい未来を創造するために、自己を向上させようとする気持ちを絶えずもっている。中学生の時期は、自己理解が深まり、自分なりの在り方や生き方についての関心が高まってくる時期であり、中学生も同様に自分を伸ばしたい、高めたいという気持ちをもっている。

しかし、自己の向上を目指そうとする気持ちとは裏腹に、他の人と比較することで自分の姿をとらえるため、周りの目を気にし、他のみんなと同じ行動をとらなければ不安であるというような弱さももっている。また、他の人と同じように扱われることを嫌がったり、反発したりする心をもっていることもある。他の人と比較して自分の姿をとらえることで、個性を発揮して自己の向上を目指すようとする意欲が低下したり、足踏みをしてしまったりすることもある。

本時を通して、今までの生活で自覚しつつある自分の欠点や短所を素直に見つめ直すとともに、資料の主人公の気持ちに共感することで、誰もが自己を向上させるために心の中で葛藤していることに気づかせたい。そして、立志の年である今、周りの仲間とかかわりながらお互いのよさを見いだし、自分のよさをさらに伸ばすために努力を続けていこうとする思いをもたせたい。

### 4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

#### (1) 学級について

本学級の生徒は当番活動や係の仕事など、決められたことにはきちんと取り組むことができる生徒が多い。しかし、責任感の強い生徒に教科リーダーの仕事任せきりにしてしまったり、給食当番の時に自分の仕事だけやって仲間のことを手伝わなかったりする生徒も見られる。このように自分で限界をつくって手を抜いたり、人任せにしたりしては、自分を伸ばしていくことはできない。また、無言清掃をしっかりとしたり、学級や学校のリーダーに立候補しようとしたりする時に、友人関係を円滑にするために周りの目を気にしたり、周りの人に合わせたりして、自分を高める行動や個性を生かした行動ができないことがあり、お互いのよさを認め合い、高め合える集団にまでは発展していない。

そこで本時では、今までの生活を振り返ることで自分の弱さを見つめ直したり、周りの仲間も同じように弱さや欠点をもっていることを知ったりすることで、自分だけが特別な存在ではなく、みんな同じであることに気づかせたい。また、資料から筆者の気持ちを考えることで、自己を向上させるために心の中で葛藤していることや、周囲の目を気にすることなく自分のもっている個性やよさを発揮することで、よりよい生き方ができることに気づかせたい。職場体験学習を終え、将来に向けての目標や志を立てる今、自分自身を振り返り、自分のよさや個性を発揮し、さらに自己を向上させようとする気持ちを育てたい。

#### (2) 抽出生徒について

##### ①抽出生徒Aについて

代議員として学級のために責任をもって仕事を行うことができる。周りをよく見て行動でき、

困っている人がいると進んで手助けをしている。一方で、周囲をよく見ているあまり、周りの仲間に遠慮して自分のやれることでも消極的になってしまうことがある。

本時では、導入の際に過去の経験を意図的に発表させることで、主人公の気持ちや心の中の葛藤に共感できるようにする。グループでの相談タイムでは、司会者として活躍させ、自分の考えを最初に発表させる。また、仲間の考えを引き出して聞くことで、多様な考え方があることに気づかせる。授業を通して、主人公の心情の変化に共感したり、仲間の発言に耳を傾けたりすることで、学級のリーダーとして周りの目を気にすることなく、積極的に仲間のことを考えた行動をすることが、自分を伸ばしていくことにつながっているということに気づかせたい。

## ②抽出生徒Bについて

生徒会役員として全校のために力を尽くしている。行事の時に自分に任せられたせりふをきちんとと言えるように陰で何度も練習する姿が見られ、自分の役割をしっかりと果たそうという自覚をもっている。しかし、他の生徒を引っ張る力があるにもかかわらず、自分に対する自信がなく、学級ではみんなのために進んで声をかけたり、意見を出したりすることができない。

本時では、主人公の気持ちに共感し、自分自身と比べて考えることができるようにするために、ワークシートに朱線をいれて自信をもって発言できるようにする。終末の振り返りの場面では、意図的に指名し、学級全体でBの思いを共有し、賞賛することで自信をもたせたい。なかなか自分の思いを文章に表すことができないことが多いので、机間指導の時に本人の思いを聞きながら、主人公の思いを考えたり、自分の思いを表現したりすることができるように支援していく。主人公の気持ちの変化について考え、共感することで、B自身も周りの目を気にせず、学級でも人前に立つことを進んで行うようになり、自分のよさをさらに伸ばしていけるようになってほしい。

## 5 資料について

### (1) 資料の概要

病院の待合室で、ドアを開けられずに困っているけが人に、素直な気持ちでドアを開けることができなかつた主人公。「いい子ぶるんじゃない。」と素直に親切ができない自分と、相手を優しく思いやろうとする自分とが心の中で葛藤する。そんな主人公が、最後には「いつかわたしにも、何気なく『親切』のできる日がくるといいな。」という気持ちをもつようになる。

### (2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

#### ①資料との対話をさせるための手だて

主人公の心情を想像しやすくするために、資料を分割して範読したり、場面絵や掲示物を利用して板書の工夫をしたりする。発問ごとにワークシートに自分の考えを記入させることで、主人公の心情を考える時間をとり、主人公の思いに共感できるようにする。机間指導を行い朱線を入れることで、自分の考えに自信をもてるようにしたり、発言しようという気持ちをもたせたりする。

#### ②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

中心発問の時にグループで相談や意見交換する時間を設けることにより、級友の意見を聞くことができるようにする。座席が近く6人を1グループとするが、グループ内に司会役をつくっておくことにより、スムーズに話し合いに取り組むことができるようにする。仲間の意見を聞くことで、自分の考えに自信をもったり、異なった考えを認めたりできるようにしたい。また、最初の発問と同じような発問を授業の終末に投げかける。資料や仲間の考えを通して、再度自分自身を振り返り、深く自己について考えることのできる時間となるようにする。また、生徒の意見に対して「どうしてそう変わったの」などと問い直しをして、自己内対話ができるように導いていく。

## 6 板書計画（次ページ参照）

6 板書計画

なんだ、この人。

なんで、開けてあげな  
かったんだらう。

いい子ぶるんじゃないよ。

開けてあげなければ。

人の目が気になって行動できなかった経験

- ・ 席をゆずれなかった。
  - ・ 挙手できなかった。
  - ・ 大きな声を出して歌えなかった。
- 疲れていたから  
勇気がでなかった  
恥ずかしい

「親切」のできなかった日

その人と目を合わせないように、そうつとその人を見た  
ときのわたしは、どんな気持ちだったでしょう。

- ・ 大変そう 一人で開けられるか気になる
  - ・ 手助けしようとする気持ちと無視する  
気持ちが入り交じっている
- ドアを開けてあげようかな



どうしてわたしは、荒い息づかいの人を見ることが  
できなかったのでしょうか。



いっしよ

気になったから

- ・ 後悔の気持ちがあるから
- ・ 目があったのに何もしてあげられなかった  
ので気まずいから
- ・ 松葉杖の人やまわりの人たちの視線が

いい子ぶるのが嫌だったわたしが、さしあたっていい子  
ぶるほうを選ぼうと思っただけでどうしてでしょう。

- ・ 親切にしない方が後悔するから。
  - ・ 困っている人を助けるのは当然だから。
  - ・ 勇気を出して行動したいから。
  - ・ 自分の気持ちを大切にしたいから。
  - ・ 行動を規制したくないから。
  - ・ 弱さや思いやりのなさを乗り越えたいから。
- 今日の資料や今までの生活を振り返り、人の目が気になっ  
て行動できなかったことについて振り返りを書こう。

7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
1	<p>人の目が気になって行動できなかった経験を発表しよう。</p> <p>電車の中でお年寄りに席をゆずることができなかった。</p> <p>合唱練習の時に恥ずかしくて大きな声を出せなかった。</p> <p>授業中に勇気が出せず、挙手することができなかった。(①)</p>	<p>※抽出生徒Aを意図的に指名して発表させることで、主人公の気持ちに共感するきっかけとする。また、行動できなかったときの思いを学級全体で共有して、主人公の思いと比べられるようにするために、「その時はどんな気持ちだったの」などと問い返す。</p>
5	○資料前半の範読を聞く。	
8	<p>その人と目をあわせないように、そうっとその人を見たときのわたしは、どんな気持ちだったか。</p> <p>○話し合う。</p> <p>大変そうなので、一人でドアを開けられるか気になる。</p> <p>けがをしていて大変そうだから、ドアを開けてあげなければ。</p> <p>手助けしようとする気持ちと、無視しようとする気持ちが入り交じっている。</p>	<p>(①B: 生かす)</p> <p>※主人公の心情や場面の状況を場面絵や吹き出しなどの掲示物を使って押さえることで、心に迷いがあったことや、思い悩む気持ちに気づくことができるようにする。</p>
1 5	<p>どうしてわたしは、荒い息づかいの人を見ることができなかったのだろう。</p> <p>なんで開けてあげなかったんだろうという後悔の気持ちがあるから。</p> <p>目が合ったのに何もしてあげられなかったので気まずいから。</p> <p>松葉づえの人や周りの人たちの視線が気になったから。</p>	<p>※「いい子ぶる」という言葉に着目するように声をかけることで、勇気が出せなかっただけではなく、周りの目が気になり行動できなかったことを押さえる。</p> <p>☆主人公の心の葛藤を理解し、周りの目が気になって親切ができなかったことに気づくことができたか。</p> <p>(発言、ワークシート)</p>
2 2	○資料後半の範読を聞く。	
2 5	<p>いい子ぶるのが嫌だったわたしが、さしあたっていい子ぶるほうを選ぼうと思ったのはどうしてだろう。</p> <p>○グループで意見交流する。</p> <p>○学級で意見交流する。</p> <p>親切にしない方が後悔するから。</p> <p>困っている人を助けるのは当然。</p> <p>勇気を出して行動したいから。</p> <p>いいことをしようとする自分の気持ちを大切にしたいから。</p> <p>個人のよい行動を規制したくないから。</p> <p>自分の中にある弱さや思いやりのなさを乗り越えたいから。(②)</p>	<p>※ワークシートに考えを記入した後、6人程度のグループで意見交換をする時間を設けることで、自分の考えに自信をもったり、異なった考えを認めたりすることができるようにする。</p> <p>※主人公の心情をグループ活動を含めて多様に考えさせることで、心の中にある弱さを見つめ、自己のよさを伸ばしていこうとする主人公の思いに共感できるようにする。意見が出ないときには「どんなことを乗り越えたいと思っているのだろう」などと補助発問をすることで主人公の思いに迫ることができるようにする。</p> <p>(②C: 焦点化する)</p>

今日の資料や今までの生活を見つめ直し、振り返りを書こう。

○振り返りを発表する。

電車の中でお年寄りに席をゆずることができなかつた。正しいことができるようになりたい。

歌は得意なのに、合唱練習の時に恥ずかしくて大きな声を出せなかつた。自分の得意なことでがんばれるようになりたい。

授業中に勇気が出せずに挙手することができなかつた。今度は勇気を出して手を挙げてみようと思う。(3)

自分の弱さやできなかつたことだけではなく、「周りの目を気にせず当たり前のことをしっかりやろう」や「自分のよさを生かしていこう」という意見を記入した生徒を取り上げて発表させることで、自分を伸ばしていこうとする気持ちを高める。

主人公の気持ちの変化に共感し、今までの自分の行動を振り返りながら、周りの目を気にせずに当たり前のことをしっかりやろうとしたり、自分のよさを伸ばすために行動したりしようとする気持ちを高める姿。

※本時の資料をもとに主人公と同じような心情や経験、自分自身の今までの生活を振り返ることで、自分のよさが出せていないことに気づけるようにする。

※抽出生徒Bを意図的に指名して発表させる。「そうだよね。私も同じように弱いところがあるよ。」などと心の弱さを認めつつ、自分のよさを伸ばしていこうとする思いを全体で共有し、「一緒にがんばろう。」などと温かい声かけをして賞賛できるようにする。

(3) B: 認める

☆筆者の気持ちの変化に共感し、心の弱さを乗り越え、自己を向上させる大切さに気づくことができたか。

(発言、ワークシート)

授業の視点

- ① 資料を分割して範読したり、場面絵や掲示物を利用して板書を工夫したりしたことは、わたし(主人公)の心情に迫り、共感するうえで有効であったか。
- ② グループで意見交換する時間を設定したり、補助発問をしたりしたことは、主人公の思いに迫り、生徒の気づきが広まったり、学びが深まったりするうえで有効であったか。

板書計画

なんだ、この人。

なんで、開けてあげなかつたんだろう。

いい子ぶるんじゃないよ。

開けてあげなければ。

今日の資料や今までの生活を見つめ直し、振り返り、人の目が気になつて行動できなかつたことについて振り返りを書こう。

- ・親切にしない方が後悔するから。
- ・困っている人を助けるのは当然だから。
- ・勇気を出して行動したいから。
- ・自分の気持ちを大切にしたいから。
- ・行動を規制したくないから。
- ・弱さや思いやりのなさを乗り越えたいから。

いい子ぶるのが嫌だつたわたしが、さしあたっていい子ぶるほうを選ぼうと思つたのはどうしてでしょう。



- ・後悔の気持ちがあるから
- ・目があつたのに何もしてあげられなかつたので気まずいから
- ・松葉杖の人やまわりの人たちの視線が気になつたから

どうしてわたしは、荒い息づかいの人を見ることができなかつたのでしょうか。



- ・大変そう 一人で開けられるか気になる
- ・ドアを開けてあげようかな
- ・手助けしようとする気持ちと無視する気持ちが入り交じっている

その人と目を合わせないように、そうつとその人を見たときのわたしは、どんな気持ちだつたでしょう。

「親切」のできなかつた日

- 人の目が気になつて行動できなかつた経験
- ・席をゆずれなかつた。
- ・挙手できなかつた。
- ・大きな声を出して歌えなかつた。
- 疲れていたから
- 勇気がでなかつた
- 恥ずかしい